

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：小学館アカデミー西いくた保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：北條 絵里加	定員（利用人数）：60名 （利用人数：60名）
所在地：〒214-0037 神奈川県川崎市多摩区西生田3-13-7	
TEL：044-969-7431	ホームページ： http://hoiku.shoppro.co.jp/hoiku/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2014年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社小学館アカデミー	
職員数	常勤職員：14名 非常勤職員：8名
専門職員	園長：1名 主任：1名
	保育士：13名 看護師：1名
	栄養士：2名 事務員：1名
	保育補助：1名 調理補助：2名
施設・設備の概要	保育室：5室 トイレ：5カ所
	調理室・厨房：1カ所 事務室：1室
	相談室：1室 更衣室：1室
	エントランスホール 園庭：有

③ 理念・基本方針

〔保育理念〕

「あったかい心」をもつ子どもに育てる
愛情・信頼・承認・思いやりの気持ちを持ち
その気持ちのこもった行動が素直に表現できることだと
小学館アカデミーは考えます

〔基本方針〕

8つの基本方針

- ①「思いやり」の気持ちを大切にします
- ②「生きる力」を大切にします
- ③「主体性」を大切にします
- ④「好奇心」が伸びる環境を大切にします
- ⑤「経験」「体験」を大切にします
- ⑥一人ひとりの「得意」を大切にします
- ⑦「ことば」の美しさ、楽しさを大切にします
- ⑧「地域との関わり」を大切にします

④施設・事業所の特徴的な取組

小学館アカデミーの運営する保育園の運営理念は「あったかい心をもつ子どもを育てる」であり、「主体性」を大切にします、など8つの基本方針を踏まえて「あそび・せいかつ」から「まなび」へ、そして、子どもの「得意」を伸ばす保育を目指す「楽習保育®」を展開しています。

戸外活動の充実…園庭・ビオトープがあり、地域の木々や小高い山・トンネルなど子どもたちは天気の良い日には元気に身体を動かして遊んでいます。園庭横には井戸があり、夏場には安全に配慮しながら年長児は保育者の援助の元、井戸水を出して川をつくったり、水に触れたりしています。他のクラスは保育者が出した井戸水や水道場のシャワーでの水あそびを楽しんでいます。また、季節の虫（ダンゴムシ・ちょうちょ・ヤモリ・せみ・とんぼ など）にもたくさん出会います。散歩では、杉山神社によく行きます。保育園を出てすぐの所にある階段を登っていきます。境内は広々としており、鬼ごっこをしたり、大縄跳びをしたりしています。

食育活動への取り組み…園庭に畑があり、4・5歳児で商店街にあるお花屋さんに季節の苗を買いに行き、畑やプランターに皆で移し替え、水やり・観察・収穫を体験しています。収穫した野菜は触れる・スタンプに使う・絵を描く・調理してもらい食べるなど年齢に応じて保育に取り入れています。収穫物を給食提供することで食への興味・関心につなげ育てる取り組みを行っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年5月12日（契約日）～ 令和5年12月15日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（2018年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子ども得意を伸ばす保育が実践されています

園では、「あそび・せいかつ」から「まなび」、そして、子どもの「得意」を伸ばす保育に取り組んでいます。自然に触れられるビオトープや築山、トンネル、実のなる樹、畑、井戸など、自然の中で四季を体得できる「遊べる」園庭環境を整え、充実した戸外活動ができています。また、定期的に地元のプロサッカーチームからサッカー選手が来園し、4、5歳児がサッカーを楽しんでいます。日々の園生活は子どもの好奇心を伸ばし、実体験によりわくわくできる機会を数多く取り入れ、楽しく遊び、学び、育つ時間を大切にしています。保護者からは、「子どもを大切にしてくれる」「園生活が子どもの心身の発達に役立つ」と高い評価が寄せられています。

2)行政や法人の協力と情報を生かして保育を行っています

川崎市や多摩区などの行政の子育て・保育に関する取組を積極的に取り入れていきます。川崎市子どもの権利に関する条例に関する動画研修や、区が取り組んでいる幼保小プロジェクトに参加しています。多数の保育園を運営している法人の子育てに関する知識や情報も積極的にとり入れて活動しています。施設運営の手引きなどのマニュアル、職員育成の研修プログラム、ドキュメンテーションや楽習保育など、法人開発の各種ノウハウを生かした取組を行っています。

3)家庭と連携し、子育てを支える取組が行われています

1階の目につきやすい場所に、手作りの「リンゴの木」の台紙を貼り出し、付箋とペンを備え、保護者が子育てで生じる様々な悩みや疑問を記入して貼り付けるという取組をしています。貼り出された内容に対して、保育士はもちろん、先輩保護者の体験やアドバイス、同じ年齢の子を持つ保護者からの共感や成功例、効果がなかったなど

回答のメッセージを貼り出し、情報交換の場となっています。直接話ができなくても、同じ悩みや考えを共有できる機会にもなり、具体的なアドバイスは悩みの解決に生かされるなど、保護者支援につながる取組となっています。保護者同士、園との関わりにより子育ての輪を広げています。

4)子どもたちの社会体験の取組

中期計画には、地域交流を一番に採り上げ、「地域交流により、子どもたちの社会体験を広げる」としています。高齢者施設への訪問や地元のプロサッカー選手によるサッカー教室も行っていますが、地域の行事への参加や職員の地域支援活動は十分ではありません。今後、地域に根ざした保育園として積極的に地域交流を深め、子どもたちが社会体験できる取組が期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園10年目を迎え、今回第三者評価を受けさせていただきました。受審するにあたり、職員をグループ分けして各項目について職員同士が自園の評価をし、話し合う中で園の強みや課題が明確になりました。

今回、第三者評価を通して保護者の皆さまからのあたたかいお言葉・ご意見、職員の率直な意見、調査員の方々の評価と、多くの視点から自園を見ることが出来ました。今回の評価をしっかりと受け止め、今後も「あたたかい心をもつ子どもに育てる」保育を実践し保育の充実を図りたいです。

また、保育者の専門性の向上、人材育成にも力を入れ子どもたちのこれからのためにより良い保育園運営に努めていきたいと思えます。

この度はありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり